

2026.4.20(日)

権田金属、生産6-7%増

前9月期 特殊黄銅品など堅調

銅フスバー、銅棒、黄銅棒などを生産する権田金属工業（本社Ⅱ相模原市中央区、権田有紀子社長）は2025年9月期の生産量が前期比6-7%増だった。特殊黄銅品の堅調な需要が寄与。このほか、太物の銅丸棒が国の海洋政策を追い風に増えた。銅フスバーの受注も国内大手伸銅メーカーの生産終了を受けて伸びた。ただ、半導体製造装置向けが、昨秋ごろのパワー半導体メーカー向けの不振で想定より荷動きが滞ったともみている。

特殊黄銅は昨年からネーバル黄銅（C4641BD-E）、高力黄銅（C6782BD-E）の新規サイズを拡充し、船舶向けを中心に需要が伸びた。フスバーは受注増に心える生産体制を整えていたことが功を奏した。

一方、半導体製造装置に使われる銅フスバーや丸棒製品の需要は不振。世界的なEUVの販売停滞によるパワー半導体の需要の低迷を受けたもので、特に黄銅丸棒は銅価格高騰の影響も加わって振るわなかった。権田社長は今後の素材代替に対する懸念も示し、「他品種への切り替えを検討するユーザーが増えており、先行きの不透明感はある」と話す。

今期の生産量は前期と比べ、さらに増える」と見通す。銅フスバーはエネルギー関連での需要増を見込むほか、供給面でも設備増強で拡大した生産能力が本格的に寄与。しほらくは堅調な需要が続くとみる（同）。前期に振るわなかった半導体製造装置向けも2月から回復基調に転じ始めており、権田社長は「急な立ち上がりに驚いている」と語る。